

令和5年度第2回遠野テレビ放送番組審議会議事録				
遠野テレビ放送番組審議会				
会議名称	令和5年度第2回遠野テレビ放送番組審議会			
開催日時	令和6年2月14日（水）午前10時00分～午前11時30分			
会場	遠野市役所本庁舎 大会議室			
出席委員	会長	菊池 武彦	委員	菊池 タキ
	副会長	石直 亮彦	委員	立花 和子
	委員	松田 奈美江	委員	中村 孝子
	委員	千葉 眞由美	委員	菊池 崇
	委員	小笠原 晃	委員	
欠席委員	委員	小笠原康友	委員	菊池 豊
	委員	菊池 保夫		
有線テレビジョン放送施設者・放送事業者	市長 多田 一彦 総務企画部長 鈴木 英呂			
事務局	情報推進課	課長 濱田 卓也 課長補佐 佐々木 利幸		
	遠野テレビ	代表取締役専務 佐々木 浩章 総務グループマネージャー 佐々木 啓 技術営業グループマネージャー 伊藤 賢一 報道制作グループサブマネージャー 菊池 裕		
会議の経過及び審議結果				
<p><b>1 開会（情報推進課長）</b> 只今から、遠野テレビ放送番組審議会を開会いたします。</p> <p><b>2 市長挨拶</b> 皆さんおはようございます。本日はお忙しいなか、お集まりいただきまして感謝申し上げます。 本年度、株式会社遠野テレビは指定管理者に携わり、1年が経過しようとしている。今年度の新たな取組として、D-base Kacomuを5月に開設し、市内で頑張る事業者にスポットを当てながら取組を行ってきました。 また、10月には本市産業まつりにおいて、妖怪のど自慢を初めて開催したところである。市民の皆さん大きな反響を感じています。 さて、本日は来年度の遠野テレビ自主放送番組の編成計画ご審議をいただくことになっています。インターネット利用者の拡大により、テレビの視聴形態も大きく様変わりしている中、市民に愛され、親しまれる番組づくりを進めてまいりたい。</p> <p><b>3 会議成立の報告</b> ※遠野市ケーブルテレビ放送施設条例第40条第4項の規定に基づき、菊池会長が議長席に登壇 <b>議長</b>：それでは会議成立の報告について事務局から報告願います。 <b>課長</b>：委員12名中、本日の出席委員は9名です。遠野市ケーブルテレビジョン放送施設条例第41条第2項の規定により、過半数以上の委員に出席いただいておりますので、本日の審議会が成立していることをご報告します。</p>				

#### 4 報告

**議長**：次に、報告に入ります。事務局から説明をお願いします。

※佐々木情報推進課長補佐が、資料の内容を一括説明した後、(株)遠野テレビの佐々木代表取締役専務、報道制作グループ菊池マネージャーが補足説明。

※報告の参考として、新たな番組として始めた「グッ、とくるぜ遠野。」の映像3本を試写いただいた。

(1) 遠野テレビ自主放送番組の放送実績について

(2) その他報告事項

**議長**：事務局より報告がありました。確認したいことはありませんか。

(無しの声)

**議長**：次の審議のなかでもご意見を頂戴しますので、進ませさせていただきます。

#### 5 審議

**議長**：次に、審議に入ります。事務局から説明をお願いします。

※佐々木情報推進課長補佐が、(1) 放送番組の編集に関する基本計画及び遠野テレビ放送番組基準、(2) 令和6年度遠野テレビ自主放送番組の編成計画(案)について説明

その後

菊池報道制作グループサブマネージャーが、詳細事項を説明。

**議長**：ただいま令和6年度等のテレビ自主放送番組の編成計画について説明がありました。遠野テレビは4月から新しい体制となって進めているわけですが、お店の紹介とか、委員の皆さん方からこれまでに出された意見等が大分反映されていると考えております。

そのような部分も含めまして、このメンバーでの任期2年の最後の会議となりますので、各委員さん方から、遠野テレビに期待すること、社長が変わり、体制が変わり、そして番組も進化しています。毎回皆さんからは、建設的な意見をいただいておりますので、その点を踏まえて、1人ずつ皆さん方からご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

**松田奈美江委員**：

先ほど放送された「グッ！とくるぜ、遠野。」の中で、この審議会でお話されたことが、直ぐに反映される遠野テレビの行動力の早さ、素早さにすごく今感激しています。いいところをいっぱい詰めて放送するという気持ちを感じられました。

取材される側も、丁寧な姿勢に応えたいなっていう気持ちにさせていただく取材で、見ていただいた方もお店をやりたいっていう、店舗側の気持ちがよく伝わる番組だったのではないかなと思っています。

遠野テレビは市民に一番身近なケーブルテレビさんで、知り合いが映ると嬉しく感じます。遠野市の一番大きなイベントの遠野まつりも、中継も見ていて楽しいんだけど、もうちょっと各団体をフューチャーして欲しいなっていう声を聞いたことがありました。先ほどのアンケートにあった、裏方の様子などはすごくいいなと思いました。

今この団体も、その地域に住んでなくてもやりたいっていう思いがあったら、受け入れてくれる団体が多くて、一緒に参加してほしいなという思いがあります。

そういうのも踏まえて、裏側とかも取材していただけたら、気持ちが少し変わってくるのではないかなと思ってこのアンケートも読ませていただきました。

**千葉真由美委員：**

遠野テレビの対応でありがとう思ったのは、以前、光ファイバーとかのチラシに特集番組はこんなにありますよっていうのを載せてくれたら見やすいなっていうお話したところ、すぐ反応していただき、その反応の早さにはすごくびっくりいたしました。

最近面白かったのが、地域おこし協力隊の方々へインタビューの企画です。たまたま、行き当たってみることができました。チラシに編成内容を載せていただければ、この面白い企画も無駄にならないかなと思ったりもします。

最近思ったのは、わらすっこ万歳の番組が、番組の最後に行ったことがよかったと感じています。保育園の子供の人数によって時間変動あります。遠野タイムのニュースの流れが変わってしまうことを残念に思っていました。

アンケートの中に、その日の出来事や明日何がありますよというお知らせ項目も入れられないかというアンケートもありました。私もそのように思います。あったことよりも、これから何があるんだということで、行政相談会とかは別の意味で、明日はどこそこで何がありますよとか、そういうのをに入れていただくことで、その場に駆けつけることもできるかなと思います。

あとアナウンサーさんたちは、地域おこし協力隊での新キャスターさんも含めて、とても聞きやすい綺麗な放送していただいておりますが、原稿が下にあるので、アナウンス時間帯の3分の2くらい視線が下に入っているんです。

電子黒板などを使い、手元と合わせてみると、アナウンサーの方のお顔がよく拝見でき、明るい印象を持っていたいただけるかなと思います。

**小笠原晃委員：**

本当にフットワークが軽くて、いろんな地域の情報が以前よりずっと掘り下げていると思いました。遠野タイムの中で先ほども出ましたけど、20年前のニュースですね。番組を見て、自分この頃何してたかなとか考えたりして、ものすごくいいなと思ったんで、アーカイブ、若しくは特集みたいなのがあれば、もっと面白くなるかもしれないなと思いました。

あとは、協力隊の方々の紹介ですね。今後、もっと皆さんから聞くとお思います。遠野に協力隊に来ているけども、何をしているのかなというのが、あのような形で取り上げてもらえれば皆さんの理解も得られると思いました。

令和6年度の自主放送番組の編成計画の中で、既存ニュース企画の見直しというのがありました。もしかして、飽きられてきている部分もあるかもしれないなと思いましたので、前向きなことが書いてあると、良かったと思います。

グッ、とくるぜ遠野！のような番組は、定期的にやってもらい、遠野で頑張っている人たちを紹介してくれたらいいなと思います。ぜひ今後もよろしく願いいたします。

**石直亮彦委員：**

20年前のニュースですけど、あれはテレビの発足からずっと取り溜めているものですか。（持っている）できれば、特集で地域毎にまとめて何分かでやるのもいいかなと思いました。

これは観光的なものなのかもしれないですが、景色とかいろいろ撮って

あると思うんですが、附馬牛の中でも全然知らないところがたくさんあるんです。駒形神社は荒川にあるんですが、実は附馬牛全体で6ヶ所もあったということを初めて知りました。各地域でそういうお宝を発掘した動画を作ってくれれば良いなとは思っています。

ただ遠野テレビではなく、各地区センターも多分やる気があると思うので、例えば動画の作り方とか、技術的なところをレクチャーしてくれれば良いかなと思っています。

現実なところで、物価高って言っていますけど、料金的なところでは将来、まだ頑張っていくんですか。出来るだけ、頑張ってもらいたいです。

あと、これも現実なところですけども、遠野市もだんだん人口が減っていきます。確実に視聴世帯も減っていくんですよね。なので10年20年後の少し長いスパンで、計画をしっかりと立ててもらえればと思っています。

私も長い間審議委員やっていますが、かなり充実はしてきますので、今後とも頑張ってください。

#### **菊池タキ委員：**

委員として、本当に長くお世話になりました。正直な話、最初の頃は、頑張りすぎないで遠野らしいところを出して欲しいなっていうことも言っていましたけど、最近はずごく垢抜けたなっていうのを感じて視聴させていただいています。

あとは、遠野物語とか遠野の昔話とかは、本当にそういうのがあるって思っても、お金を出して聞かないと昔話も聞けないとか、そういうのがあるんですが、こうやって遠野の文化を継承していただいていることに、私はすごく感謝しています。

やっぱり古くても大事なものは、続けていただきたいなと思っていますし、日々めまぐるしく変わる世の中についていけないなっていうのが感じています。皆さんに愛される遠野テレビになってほしいなと思っています。

#### **立花和子委員：**

私はカメラを撮る側の立場として、テレビということは、映像が見たいもっと綺麗だと思わせるような映像が欲しいんですが、遠野テレビさんの生中継の時は、ちょっと物足りなく感じます。

3人のお花屋さんの放送も、カメラ1台で撮っているのか、カメラを当てたとこしか映らなくて、人が足りないんだろうかと思うところがあります。テレビだってことを忘れないで、映像がもっと良くなるべき、ちょっと下手だなんて見ることがあるんです。そのような場面が遠野テレビさんには時々見られるかなって思います。

語り部も、見ていてとてもありがたいと思いますが、語り部の先輩方からは、昔話というのは耳で聞くから、映像とか音楽とか付けられないというように指導されました。語り部を生で聞くのなら、息遣いとか心臓の音まで命が伝わると思って話が伝わる。けれども映像の場合、せっかく手に取るのであれば、別な方法として、自然や場所、音楽を流して飽きないような工夫があったらいいなと感じました。

映像を見せる部分と音声をもう少しレベルアップしていただきたいと思っています。

#### **中村孝子委員：**

グッ、とくるぜ、という言葉は、心に響く言葉ですが、人によって、受け止め方というのは、今まで生きてきた人生感によって、受け止め方が違うのかなと感じています。放送に白い文字が重なっているところがありますが、どっちを見たらよいか迷うところがありました。

あともう一つは、地域の歌です。放送される映像の中で、高齢のおばあ

ちゃんと柴犬が出てくる映像がすごく気に入っていて、ほっとします。今後に期待したいと思います。

**菊池崇委員：**

皆さん非常にいい発言だなと思って聞いておりました。なるべくかぶらないように喋りたいと思います。最初に「グッ、とくるぜ遠野。」について、ちょっと喋りたいと思います。昨日ある商工団体の若手の人たちと話す機会があって、この話題が出ていました。あれいいよね、という意見でした。まずは、人に知ってもらうのが一番。取材されることで商売している人たちもやる気が出てくるという話をしておりました。商店や企業のほか、例えば農業だったり畜産だったりとかそういうところで頑張られている方々もいっぱいいるので、ぜひそういうところを積極的に取り上げていただければありがたいなと思っております。

次に、今回産業まつりで具体的にアンケートを取ったということはこれいいなと思って拝見いたしました。遠野テレビは結構見ているよっていうのは、実感としてあるんですけども、具体的にどのくらいあるかというのを数値化して、アンケートを取ったのはおそらく私番組審議委員会やってる中ではちょっと初めてないような気がしておりました。

その中で、毎日見ている方が幅広い世代の中でも 50%。週に3回以上見ているを加えると7割近くの人が見ていただいている。これは驚異的な数字だと思うので、これはある意味すごいテレビの責任は重大なのかなと思っておりました。

番組のことにに関して、あるいは何かやって欲しいっていうのはこの番組審議会を通しての意見聴取だと思いますけれども、直接的な声、生の声ということでいろんな声が出ている。こういうのもやっぱり番組作りには必要なことだなと思っていました。

アンケートの中で、スポ少の取組に、団員募集と書いております。少子化で人集めに苦労しているところもございます。遠野には、サッカーを始め野球、剣道、空手あるいはバスケがあります。一輪車、歌を歌うところなどで、いっぱいあると思いますのでそこを紹介するっていうのも、作り方によれば、良い企画になるのかなと思って見ていました。

一人暮らしのお年寄りが見て元気が出るような番組が見たいという意見があります。個人的に考えるのは、子どもたちの元気な姿を映すのはいいのかなというように感じているところでございます。

あと、否定的な意見のところ、市議会再放送不要という方がいらっしやいます。これについては、僕は必要だと思っている人間なのですが、不要というのは、多分見ていてつまらないからだと思います。難しいところかもしれないですが、編集をして、ポイント持ってテロップで流すとわかりやすくなっていくのではないかと思います。遠野のことを全市民に知ってもらってということは必要なんじゃないかなというところで、これからの番組作り、そこも含めて期待しているところです。

**菊池武彦会長：**

遠野テレビは前へ進んでいるという実感です。ただ伸びしろもあるというご意見の中で、私が携わった部分で1つご紹介させていただきたいと思います。新しいスタジオを市内に作ったり、新しい試みとして、妖怪なりきりのど自慢というものが開催されたりしました。社長が本気でなりきっているの、スタッフの専務も自分も自ら率先して変身している姿勢を見て、本気だなというのを感じました。また、遠野テレビの若いスタッフの動きが、その中でスタッフのメンバーが自分らもなりきって、一生懸命に汗をかいてるのを見て、テレビの動きが違ってきたなっていうのを感じ

ました。

このような動きが、令和6年度の番組に繋がるんじゃないかなっていうことを感じました。このメンバーの委員で、私も参加させていただいたことは、本当にありがたい経験だったと思いますし、遠野テレビの頑張っている姿を目の当りにしたので、改めて本当感謝申し上げたいと思います。

#### **佐々木浩章代表取締役専務：**

貴重なご意見を賜りありがとうございます。是非前向きにテレビの改革に進んでいきたいというように思っております。

中継の裏方の関係については、中継に入る前の事前の各団体の取組という部分においては、いつも検討しながら進めている部分があります。これをどういう体制とどういうスケジュールでやるかということについては、毎年の生中継を4方向で取り組むことで検討していきたいというように思います。

あとは、アナウンサーの件でございます。原稿を下に置いてあるということで、どうしても下を見ています。大手はプロンプターという、原稿を上からカメラで取って前面に映す、テレビ局ではそのようなことをやっています。このシステムはとても高く何億もします。アナウンサーはみな一生懸命練習をして話をしておりますので、なるべく動かないようにしながら、お伝えできるようにしたいと思います。儲かったらプロンプターの導入も検討しながらいきたいと思っていますので、ご理解いただければと思います。

あと、10年前の番組。これについては、本当に皆様からたくさんご評価いただきました。映像は財産です。先ほど地域地区ごとの特集という話がありました。活用の方法としては、非常にいいご意見でございますので、前向きに考えていきたいというように思います。

動画の作り方レクチャーについては、人をどのように手当てするかを考えて、検討していきたいと思います。

遠野テレビの10年後20年後、少子化の中で遠野テレビをどうするかということについては、今、真剣に考えています。新しいマーケットを含めて、コンテンツ産業の内容を含めながら、検討する内容になります。

あと語り部つきましては、本当にありがとうございます。我々は何としてもまず119話は残さないといけないということでやりました。見ておられる方から、良いという方、駄目だという方もおります。ただ私達は、ここからスタートします。批判も、ご意見も、こうしたらいいんじゃないかということについても、受け止めていきたいと思います。残念ながらもうお亡くなりになった方もいらっしゃると思います。その方々の映像を取れていなかったということについては、我々は本当に反省すべきことだというふうに思います。そういう面で、ここからスタートだというふうに思いますので、先ほど見せる工夫というお話がありましたので、こういったものを付加しながら、評価できるような番組作りにぜひ挑戦したいというふうに思います。

あとは番組の特別の白い文字については、これも社内でいろいろ検討しながら進めてまいりました。今の段階では、やはりこういう意見を受けながら、どういった対応ができるかということについては対処しながら進めていきたいと思います。

あとアンケートです。毎年DMを皆さんにお出しして、産業まつりでアンケートを持ってきていただくというやり方をしています。そういうことで回収率を上げながら、これからもこういった形で直接声を聞くという形で進めていきたいというように思います。

スポ少ですが、たくさんあるので順番を決めながらやりたいと考えています。今年は結構サッカーが頑張ったということで、サッカーがメインとなった部分もありますけれども、先ほど崇委員からもありましたように、いろんな団体がありますから、その部分についても順番に検討してやるということできたいと思います。

あと議会放送の件です。これは議会事務局との申し合わせ事項ということで、決して編集を怠けているわけではなく、議会事務局との取り決めということで役割を果たしている状況ですので、ご理解のほどよろしくお願いしたいと思います。

今回、皆様からいただいたご意見で、今答えられる内容は以上でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます以上です。

**議長**：審議についてほかに何かございませんか。それでは、皆さんから只今の審議事項について、承認をいただきたいと思います。

それで審議事項の(1)放送番組の編集に関する基本計画および遠野テレビ放送番組基準についてご承認の方の拍手をお願いいたします。

(全員拍手)

ありがとうございます。全員の承認を頂きました。続きまして(2)令和6年度遠野テレビ自主放送番組の編成計画(案)についてご承認の方拍手をお願いいたします。

(全員拍手)

ありがとうございます。全員の承認をいただきました。

## 6 その他

**議長**：次に、その他に入ります。事務局から何かございますか。特になし。

**事務局**： それでは最後に、市長から皆様に対して一言コメントを頂きたいと思えます。

**市長**： 皆さん本当にありがとうございました。よく見てらっしゃるなということ、よく考えていただいているなということをつくづく感じました。

その中で今日もヒントがありました。市民からのあれ何というのがありました。地域おこし協力隊とか。これなんだ？という市民の疑問にお答えするっていうのが一つできるかなというように感じました。市民のちょっとした疑問にお答えすると、とっても近くなっているのかなというような気がしました。

人口減少は、これは本当に重要なところで、今いろいろ考えてるところです。まず第1に、株式会社テレビの株を農協さんから買い取りました。組織の大きいところが寄り集まった遠野テレビだったのですが、この株をもう少し市民とか市内の方に持っていただくとか縮小して、もっと身近な遠野テレビにしていこうというように考えています。

そして、いろんなところでインターネットをやっているんですが、観光協会、ふるさと商社、風の丘も然りです。毎年毎年結構予算要求があったりするんです。分担して、それぞれ中身を濃くしておいていただいて、これをやるたびに、集約していかないと、運営できなくなるぞって思います。その時、中心的な役割を遠野テレビが果たしていくことになるのかなというところなんです。そこに合わせていくためには、色々な準備をしなければいけないので、合理的にやっていかなければならない。遠野テレビは、後をついていく会社であっては駄目で、先を歩いていく会社じゃないとい

けないというのがまず一つ思っていることです。

色々なことを勉強したり、見たり聞いたりしなければいけないということを、立花さんがおっしゃっていたように、技術も追求していかなければいけないというところだと思います。

これから、マイナンバーカードとかアプリとか、必要になってくるわけですが、これらのアプリを作っていくのが遠野テレビだろうと思います。それを使って、例えば交通のサービスであるとか保険証であるとか、市民が入場無料になりますよとかです。色々なサービスがそこに凝縮されているアプリを開発して運営していかないと、人口減少とか多様化に対応できないだろうというように思います。

その辺を、佐々木専務と相談しているところです。

そしてもう一つ強く感じたのは、議会です。議会は、意外と視聴率は高くなっているんですけど、面白くはないですよ。言葉も議会用語であったり。これからは話を短くします。コンパクトにわかりやすくっていうことを心がけて、議員さんたちにもそういうことをお知らせして、こういう話が出ました。そのところを考えて、シャキッとした運営をしていきましょうということをお話していきたいなと思います。

それからレジェンド。遠野ぴあプランという本を時々見るんです。遠野ぴあプランはすごくいいんです。そこで感じるの私フロンティアスピリットなんです。

これを見ると、再びそういうふうな時代になってきているぞ。強い遠野になっていくために何をしなければいけないかということが問われる時代になってきているぞということを非常に思いました。

遠野テレビの審議会なんですけど、非常に遠野市の市政の運営のことについて共通する部分のヒントをいただいたというように感じます。ありがとうございました。そしていろいろ褒めていただいてありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## 7 開 会（情報推進課長）

以上で、第2回遠野テレビ放送番組審議会を閉会させていただきます。

本日はありがとうございました。